

◆ 今週のコメント

- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が、1例(男性, 60歳代)あります。本年の累積報告数は7例です。症状は発熱, 咳嗽, 肺炎です。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は塵埃感染です。
- ・ アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(男性, 50歳代)あります。本年の累積報告数は9例です。症状は, 下痢, 粘血便です。推定感染地域は国内で, 感染経路は不明です。
- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は2.34で, 第28週(7月9日～7月15日)以降, 多い状態が続いています。年齢階級別では, 1歳が29例(30.2%)で最も多く, 次いで2歳 24例(25.0%)で, 1歳～2歳が55.2%を占めています。今後の動向に注意が必要です。

◆ 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は, 0.98(40例)で先週(0.76)よりも増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 3例(肺結核 2例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 256例(肺結核 100例, その他結核 56例, 潜在性結核感染者 100例)うち喀痰塗抹陽性 54例】
- ・ 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 7例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 9例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.71	111
	② ヘルパンギーナ	2.34	96
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.98	40
	④ 水痘	0.85	35
	⑤ 突発性発しん	0.71	29
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

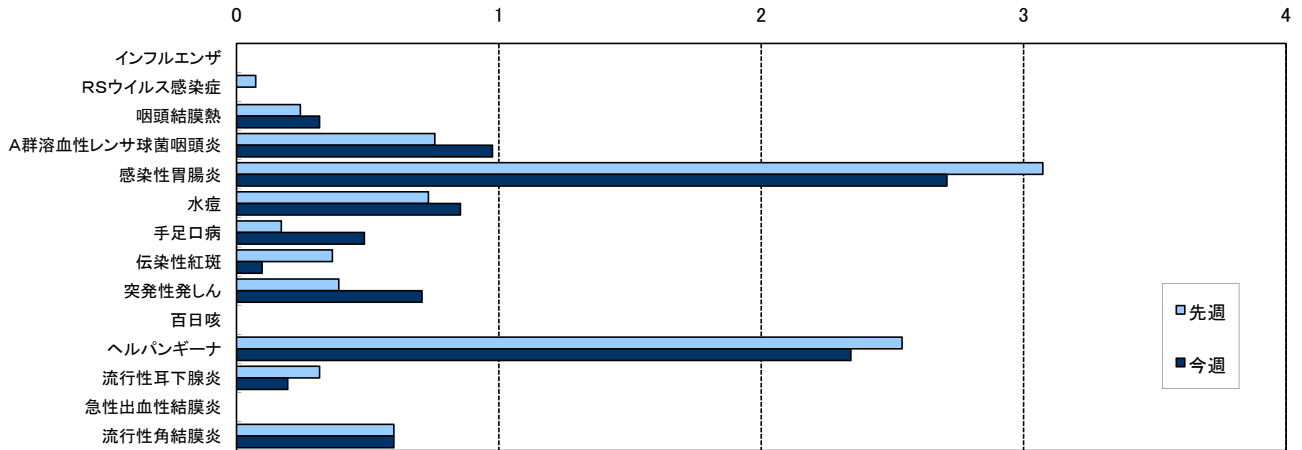
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

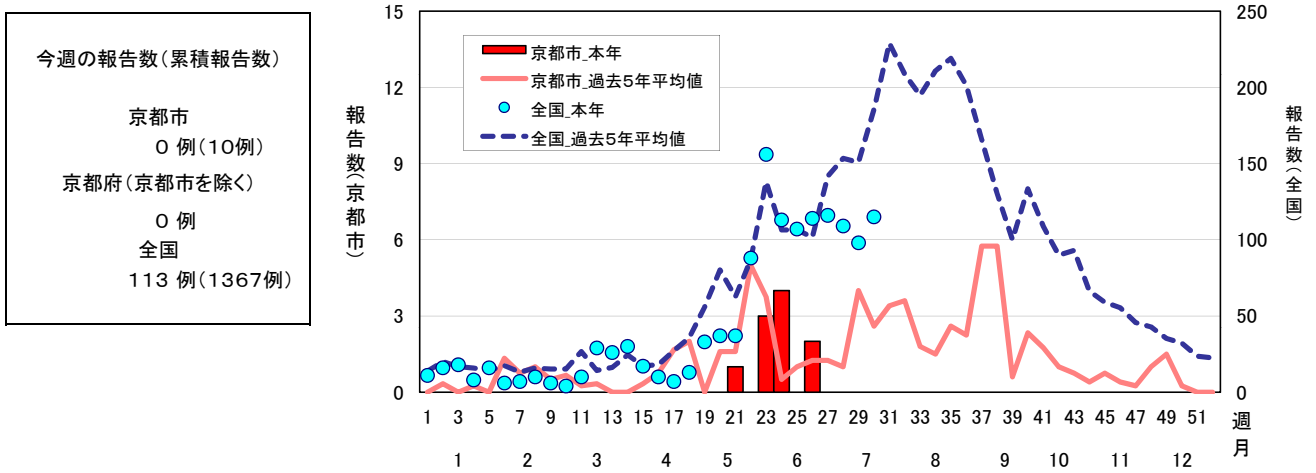
(注) 京都市のデータは, 平成24年8月2日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第30週)と先週(第29週)の定点当たり報告数の比較

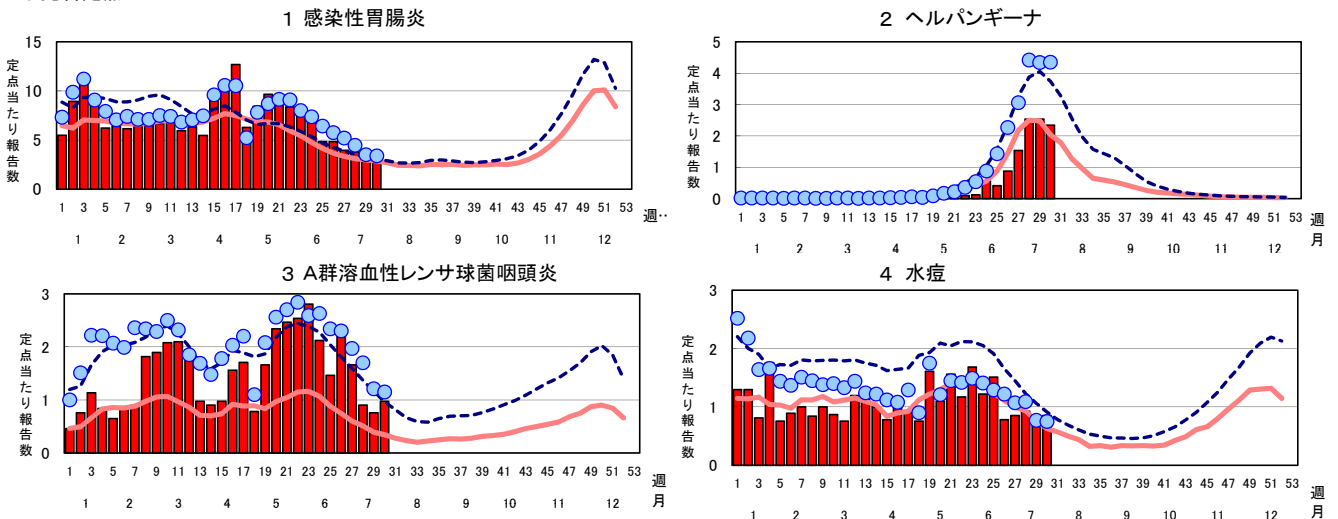


2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

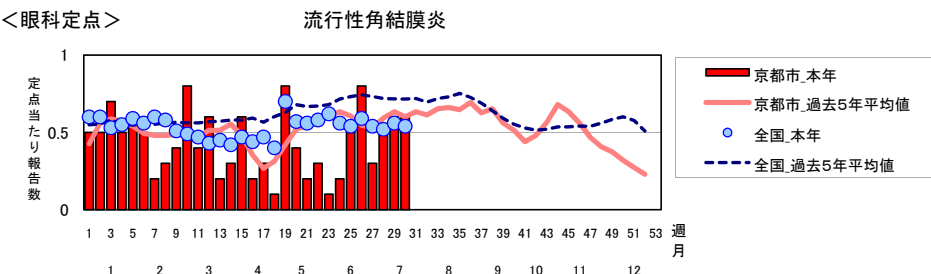


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



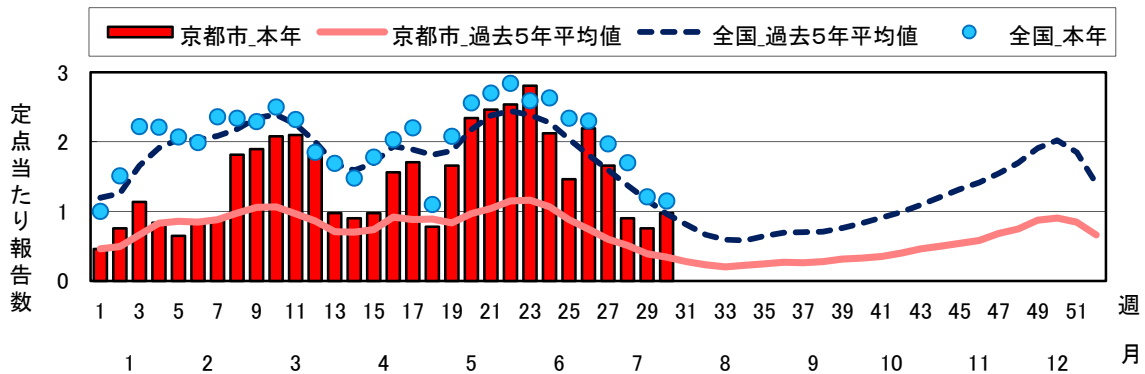
第30週(7月23日～7月29日)トピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、0.98(40例)で先週(0.76)よりも増加しています。本年は第23週(6月4日～6月10日)を一つのピークに増減を繰り返しながら、徐々に減少はしているものの、例年よりも多い状態が続いていますので、今後の動向に御注意ください。

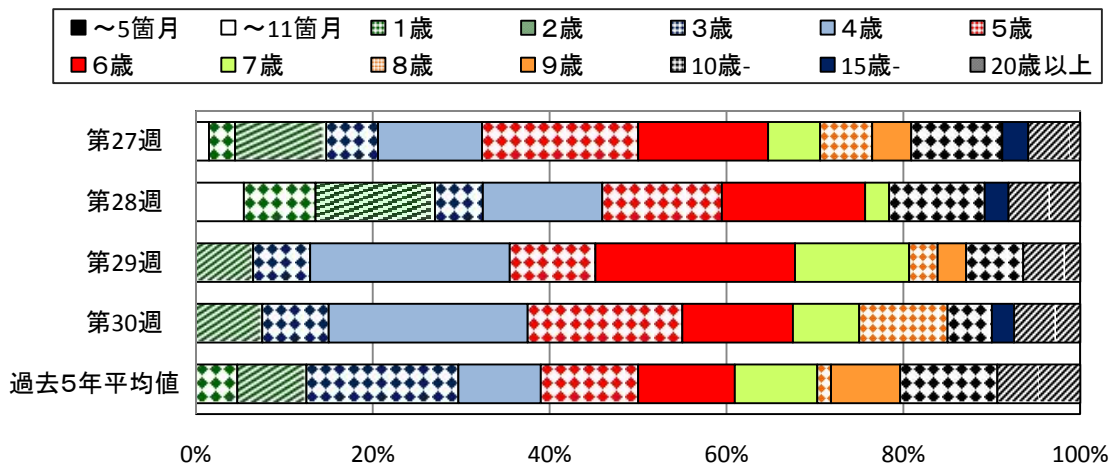
年齢階級別にみると、2歳以上の幅広い年齢階級から報告がありますが、4歳が9例(22.5%)と最も多く、次いで5歳7例(17.5%)、6歳5例(12.5%)となっています。

行政区別定点当たり報告数では、右京区が2.40と最も多く、次いで南区2.00、左京区1.50の順となっています。

京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別定点当たり報告割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移

